南部町のいきものたち ㉓

アトリ

上鴨部にて　　（撮影：桐原真希）

平成6年1月28日付けの産経新聞に、こんな見出しの記事が一面にカラーで掲載されました。「あっ鳥だ！山里覆うアトリの大群～岐阜・根尾村～」。駄洒落を入れた見出しも印象的でしたが、その記事に添えられた写真の、まさに空が黒くなるくらいのアトリが飛ぶ光景にも圧倒されました。アトリは、冬鳥としてロシアやカムチャツカなどから渡って来ますが、この年の冬に数十万羽ほどが根尾村（現本巣市）に飛来していたそうです。その後私は、色々なところでアトリを見かけましたが、大きな群れに出会うことはなかなかありませんでした。

ところが昨年の2月に、町内で初めて数百羽のアトリの群れを観察しました。「うわー、城山公園のそばでこんな大群が見られるなんて！」と興奮がしばらく冷めませんでした。その数日後、上鴨部まで出かけたときのことです。遠くの冬枯れの田んぼから、黒い煙が立ちのぼっているように見えました。近づいてみると、その「煙」がなんと、千羽以上の「アトリ」の群れだったのです。飛び交っていたアトリの群れは、ちょうど自動車整備場のそばに舞い降りました。私は、急いで望遠鏡とデジタルカメラを用意して三脚を立てました。アトリの群れは、田んぼと電線を行ったり来たりしていて、その様子は群れ泳ぐイワシの大群のようにも見えました。

そして、この写真が撮れました。電線の端から端までズラリと並んだアトリたちの一部を切り取ったら、なんだか楽譜の中の音符みたいにも見えます。スズメサイズの小さい体ながらも、数が集まれば、その重さで電線が深くたわんでいました。

残念ながら、アトリが越冬する場所や数はいつも決まっている訳ではなく、昨年アトリの大群が来た場所だからといって今年も飛来するとは限りません。でも、彼らはきっと町内のどこかで、大小の群れを作り、寒さをしのいでいることと思います。漢字で「花鶏」、もしかしたらお近くで冬の花が群れ飛んでいるかもしれませんよ。

自然観察指導員　桐原 真希

PRINTED WITH SOYINK この印刷物は大豆インキを使用しております。